

皮膚科この1年

皮膚科医長 和田 隆

診療体制

平成19年度の医師に関しては、平成18年度に引き続き、和田 隆、大石泰史の2名の診療体制で行っております。

平成17年4月から2ヶ月に1度、旭川医科大学皮膚科学教室より、飯塚一教授に外来診療に来てもらっております。

外来診療

外来は医師2名、看護師2名、看護助手1名で行っております。手術は主として月曜日と木曜日の午後に行っております。昨年は外来患者数は一日平均130名程度と前年度とほぼ同等の人数でした。

本年度より予約制を取り入れて診療にあたり、診療待ち時間の短縮につとめております。しかし予約外診療の数が予約数以上となることが多く、予約外診療の待ち時間が長くなっているのが、現在の問題点の一つであると考えております。

治療に関しては、今年度より陥入爪の治療法と

して弾性ワイヤーによる保存的治療を導入して診療にあたっております。

病棟診療

病棟は平成17年4月より2年間4階西病棟でありましたが、今年度より3階東病棟へ移りました。ベット数は現在6床で、入院患者数もほぼ昨年度と同様で、平均4人程度の入院となっております。

この1年の入院患者は60名程度でおもな入院患者は、悪性腫瘍や皮膚良性腫瘍の手術患者、带状疱疹、蜂窩織炎を主体とする感染症、褥瘡や皮膚潰瘍、熱傷、蕁麻疹、蜂刺傷、薬疹、類天疱瘡に代表される水疱性疾患などとなっております。

ポケットを形成する褥瘡の保存的治療として陰圧閉鎖吸引療法にも改良を加えて取り組んでおります。

手術は1年間で120例程度行っております。主に単純切除術で植皮術が10件程度、皮弁術が5件程度ありました。それ以外に外来にて、小手術、皮膚生検、陥入爪手術、縫合術、皮膚切開術を130件程度行っております。